

11/19 ビジネスミーティング議事録 (文責： 山本、豊田、中田)

(1) 出版関係

①Springer (14 論文)

(情報収集：遠藤：責任者：谷口)

Submission Dec 31

Review Feb 28

Revise Apr 30

Publication Sep 2010

- ・ ページ数の規定について  
10 枚規制でも 20 ページくらいまでなら大丈夫、30 ページは無理かも。確認してみる。
- ・ 共著者について  
各班のメンバーの名前を入れるべきか。  
論文のスタイルによるが、リストにするべきだろう。  
著者名は、一つのチャプターに一人。他のメンバーはリストにする。
- ・ レビューについて  
査読論文ではないが、原稿チェックは入る。構成の確認など。チェック後にリバイスを。
- ・ テンプレートについて。  
特にテンプレートはないが、必要な情報を集める。カラーページは有料だが、できる限りプロジェクトがカバーする。80,000 円/頁のコストがかかることを留意のこと。

②Hydrological Process (17 論文+白さん+ $\alpha$ )

(山本：情報収集, 谷口：責任者)

Title/Authors Nov30

Abs Dec 31

Submission Feb 28

Review Apr 30

Revise June 30

Publication Dec 31, 2010

- ・ スケジュールとメンバーリストは谷口が全員にメール
- ・ + $\alpha$ として論文を書く可能性のある人

愛知（東大）、仲江川（気象研）、後藤（産総研）、清水（広大）  
→各班のリーダーが本人に意思を確認

③Water International (International water resources association) (5 論文+ (3 or 4))

(豊田：情報収集, 今井：責任者)

Title/authors Nov.30

Abs Dec 31

Submission Feb 28

Review Apr 30

Revise June 30

Publication Dec 31, 2010

- ・特集号にしては、論文本数が少ないのでは。Springer にいれてもいいのでは？  
通常の特集号は何本くらいなのか==>少なすぎるので、中国水に関する **water International** の特集号の合作にする？  
特集号にするための最低論文数を確認する（今井）

(2)来年度の調査、観測

来年は最終年なので、予算的に厳しい。そのため、いくつかのグループが調査の希望があるが、優先度が高いものから行くことに。

(3)今後の成果発表の機会

- ・ EGU (May, 2010, Vienna、地下プロセッションあり)  
ヨーロッパの学会は、普段欧米に研究成果を発表する機会があまりないので、いいチャンスなのでは。
- ・ WPGM (part of AGU, June 22-25, 2010, Taipei)
- ・ AGU
- ・ 連合大会（物質関係でセッションあり）
- ・ 社会科学関係→Gayl さんが可能性のあるリストをまとめて送ってくれる（↓下記）

There are two useful web sites that provide information on conferences. [www.Ciesin.columbia.edu](http://www.Ciesin.columbia.edu) is as very large network dealing with global environmental change. There is also the International Human Dimensions of

Global Change [www.IHDP.unu.edu](http://www.IHDP.unu.edu) that also gives conference information.

- Geochemistry 関係の学会 (July, 2010)

- IHDP (上半期, 2011)

このプロジェクトは、地域的な問題に着目しているのだからいいのでは。

- ロバートさん：来年バンドンで学会を計画している。(September, 2010)

- UNESCO (November, 2010)

#### (4) データベース

- データ

物質班は今回来ているメンバーのデータを今回集めて豊田に渡す

モデルはまだ決定版ではないので注意が必要。大きく変わる可能性もある。(山中)

- GIS 土地利用

Project 終了 2 年後まで生データ利用はメンバー限定。台北 1960 年はシンポジウム一週間後に完成予定。

- 業績リスト

確認後改めてリーダーに。

都市地理、物質、社会経済班確認してください。書式は特に関係ない。

#### (5) 今後の研究に必要な追加データの収集について

- モデル WG

SWAT, Modflow モデルに必要な追加データは特にない。

- 統合指標関係

地下水位データ：

マニラ：JICA のレポートを。帰国後確認。

フェルナンドかピーターが水位データを持っているかもしれない。(小野寺)

ソウル：STOTEN

地盤沈下のデータ：

ジャカルタ地盤沈下：ロバート、最近 10 年間のデータあり。

マニラ、JICA レポート。

熱のデータ：

10年ごとのデータだけかどうか？→毎年ほしい

- ・全てのデータを収集するのは困難なので豊田さんに全て依頼するのは無理がある(金子)
- ・大津でメモを作ったのでそれをみながら提供して欲しい(谷口)
- ・chemical データは豊田さんにあげた(細野)
- ・たった一点の chemical データにほとんど意味が無い(多くのプロセスが関与しているので。都市の成長指標や規制効果評価にはなるかもしれないが。)

#### (6)統合指標関係ディスカッション

統合指標 (cont→窒素)

- ・清水：3時代の土地利用変化からの窒素排出量
- ・松本：マテリアルフロー
- ・重金属濃度を入れるのはどうするか。
- ・重金属のソースを特定するのが困難  
→大阪、東京はやってほしい。
- ・大阪、東京の堆積物からの重金属濃度の解析は、すでに出版されている。ただし推計方法が異なる。細野さんは大阪推計しているため、その値とこれまでの研究との比較は可能。
- ・国ではなく、地域的なものを
- ・鉛はできるのでは？鉛含有はガソリンがメインなので。社会経済との関連をみて。

統合指標 (heat)

- ・Rの指標を探すのが大変。
- ・土地利用マップからの推計であるが。

熱班：

地下熱の研究、一之瀬先生の研究など、さまざま視点からの研究が行われているが、どのようにこの研究をまとめるかがカギ。

地下開発の指標として地下鉄延長のデータを用いて、それと蓄熱量のデータを比較するのもいいのでは。土地利用と、地下熱、ヒートアイランドの関係など。

Rは、どのような原因によって変化するかを特定すればOK。